

(4歳児)

感じたい、考えたいしたことをやってみよう！(フープ)



- ねらい
 - ・感じたこと、考えたことをやってみよう
 - ・フープを使った遊び方を知り、楽しんで取り組む

活動経過

フープを使って遊ぼう！

「転がるのかな？」
 「回るのかな？」
 「回せるかな？」



工夫をし始める

「転がった」
 「転がし方を変えると
 戻ってくる！」
 「手で回った！」
 「腰で回せた！」



上手になりたい(願い)

「もっとうまく回したい」
 「友だちにみたいに回したい」
 「友だちやお母さんに
 見て欲しい」
 「もっと難しいことを
 挑戦したい！」

○幼児の姿

- 園庭にあるフープを使って遊ぶ。
フープの中に入ったり、転がしたりして遊ぶ。
- 年長児が腕や腰で回しているのを見て真似る。
すぐに回せて夢中になっている子どもや、すぐに飽きて違う遊びをしている子どもなど様々である。
- 回し方を工夫するようになる。
上手に回している子どもを見て、どのように工夫したら早く回るのか、長く回せるのかなど、考えて行うようになる。
回せるようになると、友だちに教えようとする。
- クラスの皆と一緒にフープで遊ぶと楽しいと思うようになる。
アイコンタクト取りながら回したり、励ましたりする。

・環境構成・保育者の援助

環境構成

- ・園庭遊びで使えるよう大小のフープを用意しておく。
- ・年長児がフープで遊んでいる姿が見れるようにする。
- ・友だちや保育者も一緒に遊ぶ。

試行錯誤

- ・子どもが何に興味を持っているのか遊んでいる姿や言葉から気付けるよう、行動や態度を見守る。
- ・フープを使って、試している姿を見守り、子どもが気付いたことを一緒に試したり、工夫したり、共感したりする。
- ・フープを回している友だちや年長児を見て「あんな風に回してみたい」と憧れを持った時、どうしたら上手く回せるかを一緒に聞きに行く等する。
- ・もっと上手く回したいと友だちに教えてもらったり、教えたり、子どもどうして高め合おうとする姿を見守る。

考察

キーワード

憧れ

試行錯誤

認め合う

保育者の読み取り

★「なぜ遊びが充実したのか」

◎「なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか」

★年長児が回している姿を見て“あんな風にまわしてみたいな〜”と憧れを持ったことをきっかけに、やってみようという意欲が見られた。年長児を真似るだけでなく、自らどうすると回るのか、長く回るのかなど試行錯誤していく。その中で気付いたこと、工夫したこと、失敗したこと、上手くなったことを友だちや保育者と共感し、認められたことにより、更にフープを回すことに夢中になっていった。

◎保育者がフープの遊び方を知らせるよりも、フープの回し方を自分で工夫し、友だちと一緒に試行錯誤したことを認めてくれる友だちや保育者がいたことで、子どもどうしが認め合い、他者への信頼感を獲得したように思う。そして「もっと難しいことをやってみよう」「保護者にも見て欲しい」という気持ちの高まりから、運動会で行うことで、更にたくさんの人から認めてもらえた経験が自己肯定感を育むことへつながった。

(5歳児)

意欲を高める運動遊び～友だちも自分も認めよう～



- ねらい
 - ・運動を通じて友だちと認め合う
 - ・身体を動かして遊ぶなかで、意欲を高める

活動経過

縄とびを楽しもう！

「縄を回したり、自分なりに跳んだりしてみよう！」



自分にあった縄を見つけよう！

- 「長さはどれが回しやすいかな」
- 「どんな縄が使いやすいかな」
- 「持ち手はどれが握りやすいかな」



いろいろな跳び方に挑戦しよう！

- 「こんな跳び方があるよ」
- 「どんな回し方をしたら、うまく跳べるかな」
- 「どのタイミングで跳んだら跳べるかな」

○幼児の姿

- 「できる」「できない」や周囲の評価を気にしがちな子どもが多く、できないからと取り組む前に諦めてしまったり、取り組みを拒否したりする姿が見られる。
- 「できる」「できない」が顕著に見える活動の為、苦手な子が進むに後ろ向きになる姿が見られる。
- 自分の回しやすい縄を見つけ、チャレンジしてみる。
- 友だちの跳んでいる姿を見て、良いところを見つける。
- 友だちの良いところを意識して、自分なりに試してみる。
- 自分の良いところに気付く。
- 回数を重ねることで、徐々に自分なりに跳べるようになってくる。
- 友だちの取り組んでいる姿を見て応援する。
- できないところを考え、友だちの姿を参考に自分の動きを意識する。

・環境構成・保育者の援助

環境構成

- ・継続して楽しみながら取り組めるような働きかけを行う。
- ・緊急事態宣言中の原則休園期間に、家庭でも取り組めるように、園のホームページで「縄とび頑張りカード」を配信する。
- ・道具は、各自が回しやすい縄（長さや持ち手を工夫する）を準備する。

話し合い活動

- ・友だちの取り組む姿を見て、素敵なおところを見つける。
- ・自分たちでポイントを見つけられるよう必要に応じて助言をしながら、子どもからの発言を待つ。
- ・上手に跳べる姿だけでなく、頑張りなどに気付けるよう働きかける。
- ・自分のできているところを考えてみる。

試行錯誤

- ・跳ぶタイミングや回し方等、様々なやり方を試してみるよう働きかける。

考察

キーワード

個・集団の育ち

意欲の高まり

保育者の読み取り

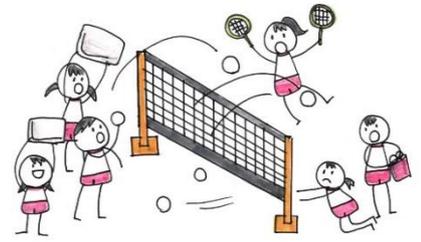
★「なぜ遊びが充実したのか」

◎「なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか」

- ★素材の異なる縄を数種類準備し、子どもたちが自分に合った縄を選択できるようにした。
また、縄の持ち出(グリップ)部分にホースを通したものを補助具として取り入れることで、縄が安定し、跳びやすくなる子どももいた。
- ★長期間での見通しを持ち、時間をかけて取り組むことで、できなくても焦ることなく自分のペースで取り組むことができた。
- ★自分のできているところや頑張りなどを認めてもらうことを基盤とすることで、苦手なことも参加できる活動となった。
- ◎集団の中で互いに認め合う機会を通じ、自分の活動に自信を持って取り組むことができた。
- ◎できなくても否定をせず、常に子どもたちの活動を認めてきたことで、前向きに取り組むことができた。
- ◎目標とする動きは「少し頑張ればできる」という設定にし、負担にならず少しずつクリアできるように考えた。
- ◎家庭でも意欲的に取り組めるような工夫をすることで、保護者とともに成長を感じることができ、達成感を得ることができた。また、やる気を持続することができた。

(5歳児)

身体や道具を巧みに使って～チームで作戦を考えよう～



- ねらい ・友だちと共通の目的に向かって作戦を考えたり、協力したりする
- ・身体を動かして遊ぶなかで、充実感を味わう

活動経過

玉入れの玉を使って、ゲーム遊びをしよう！

「相手の陣地に、たくさん玉を投げ入れよう！」



ネットの出現

「前よりも高く投げないと、相手の陣地に届かないよ」
「下にも隙間が空いているけど、上と下、どちらから入れるとたくさん入れられるかな？」



いろいろな道具を使ってみよう！

「たくさんの玉を一度に入れるにはどうすればいいかな？」
「どの道具を使うか、誰が何の役をするか、勝つためにチームで作戦を考えよう！」

○幼児の姿

- ドッジボールやリレーの経験から、チームの人数を揃えようとする。
- 玉の数を数える際、1列に並べると数えやすいことに気付く。
- 自分の身体の動きと、ネットまでの距離、投げる高さを調整している。
- 作戦会議をして、友だちと役割分担をしたり、協力したりしようとする。
- 道具によって、使い方を考えながら自分なりに試してみる。
- ネットの上からバケツで球を投げ入れる。
- 飛んできた球をお盆で防ぐ。
- ラケットで球を押し込んだり、遠くまで打ち込んだりする。
- 遠くから投げたり、ネットの下から転がしたりする。
- 回数を重ねることで、友だちとの役割分担が成立するようになってくる。
- 友だちの姿を参考に、自分の動きに取り入れてみようとする。
- 試したり、振り返ったりしたことを次に活かそうとする。

・環境構成・保育者の援助

環境構成

- ・勝敗表や10のまとまりを示す表などを用意し、視覚的に数量の比較ができるようにする。
- ・ネットの高さや試合時間などを調整し、十分に身体を動かす機会をもてるようにする。
- ・道具は、幼児が使い方をイメージしやすいものや、遊びや生活の中で使用した経験のあるものを用意する。

話し合い活動

- ・幼児の思いに寄り添い、考えや思いを引き出す。
- ・自分たちで話し合えるよう、時折助言をしつつ、見守る。

試行錯誤

- ・勝敗にこだわることで、勝つための作戦を練ろうとする姿を引き出す。
- ・自由に道具を選択できる数を用意し、何度も持ち替えたり、試したりできる機会をもつ。

考察

キーワード

集団性

試行錯誤

保育者の読み取り

★「なぜ遊びが充実したのか」

◎「なぜ子どもの育ちや学びにつながったのか」

- ★幼児にとって「玉を投げる」という分かりやすい運動から、段階を踏んでルールを変化させていったことで、全員がルールを理解して楽しんで活動することができた。
- ★保育者が意図的に環境構成をしたりゲームの時間を調整したりしたことで、幼児にとって十分な運動量の確保に繋がった。また、両方のチームの満足感や興味の持続に繋がった。
- ★個々の幼児の体力や運動能力に応じて動き方を選択できることで、全員が楽しんで参加できる活動となった。
- ◎道具を使用することにより、投げる・転がす動きに加えて、道具を使って防ぐ、押し込む、バケツを使って投げ入れる、打ち返すなどの動きが加わり、動きが多様化した。
- ◎勝敗のあるゲームのなかで、作戦を考えたり役割分担したりすることで、年長児らしい集団性を育む活動に繋がった。
- ◎活動の計画の時点で、「幼児期の終わりまでに育みたい10の姿」を意識しながら、幼児の姿や育みたい力を整理したことで、保育者がより意図的に環境構成をしたり声掛けをしたりすることができた。